

I. 金閣小学校と連携した社会科の授業実践研究報告

岩 渕 信 明

1. はじめに

本研究では、子どもの豊かな変容を目指す授業の在り方について、授業実践研究を実施してきた。社会科では、京都市立金閣小学校との連携により、1年間にわたって、「社会生活に関心を持ち、自分たちで調べ、考え豊かに表現できる子どもの育成」をテーマに、2011年度より実施の小学校学習指導要領の趣旨をふまえつつ、子どもが意欲的に進め、考えを豊かに表現できる社会科学習の在り方に焦点を当てて授業実践研究に取り組んできた。その概要、成果について述べたい。

2. 小学校学習指導要領の目指すところ

小学校学習指導要領解説「社会編」によると、社会科の改善の基本方針の一つに、社会的事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を確実に習得させ、それらを活用する力や課題を探究する力を育成する観点から、各学校段階の特質に応じて、習得すべき知識、概念の明確化を図るとともに、コンピュータなども活用しながら、地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること、社会的事象の意味、意義を解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明すること、自分の考えを論述することを一層重視する方向で改善を図っている。

さらに、改善の具体的事項として、実際の授業では、問題解決的な学習などを一層充実させることや、観察・調査や資料活用を通して必要な情報を入手し、的確に記録する学習、それらを比較・関連付け・総合しながら再構成する学習、考えたことを自分の言葉でまとめ伝えあうことによりお互いの考えを深めていく学習など言語活動の充実を図ることを求めている。

その上で、社会の変化に自ら対応する能力や態度の育成を図る観点から、学び方や調べ方を大切にして児童の主体的な学習を一層重視することが必要であること。児童一人一人が自らの問題意識をもち、学習問題に対して解決の見通

しを立て、それに従って必要な情報を収集し、それらを活用・整理して問題を解決していく学習活動を構成すること、が大切であると示している。

こうした学習指導要領の趣旨をふまえ、金閣小学校では、長きにわたって地域に根差した学習を基盤に、「社会生活に関心を持ち、自分たちで調べ考え豊かに表現できる子ども」の育成を研究の柱に2011年度の授業研究を行った。

実際の授業では、子ども一人一人が自らの問題意識を大切にしながら問題解決的な学習過程を大切に、観察・調査や資料活用を通して必要な情報を入手し、自らの思考活動に位置付け、自分なりの表現によって伝えることを重視する学習を進めていった。

3. 金閣小学校との連携による具体的授業実践

3～6年の社会科学習で、いかに社会生活に関心を持たせるのか、また、自分たちで何を具体的に調べるのか、に焦点を当てて社会科学習の授業の組み立てを検討していった。

社会科の継続研究によって地域教材を開拓している金閣小学校では、地域教材で、子どもが主体的に活動するためにどのように調べる活動を進めたらいいのか、また、どのような問題設定によって追究活動を展開すればいいのか、について具体的に授業実践の中で検証した。学習の形態としては、子どもが問題意識をもって追究活動を進める問題解決的な学習を進めたのである。

以下、4年の社会科、単元「安全なくらしを守るー火事をふせぐ」の授業実践に焦点を当て、その検証を行いたい。

(1) 授業実践の記録

①単元名 4年 安全なくらしを守る

②小単元名 火事をふせぐ

③小単元の目標

火災から地域の人々の安全を守る活動について、関係機関は地域の人々と協力して、火災の防止に努めていることや関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていることを見学し、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考え、表現する。

④研究実践のポイント

子どもたちは火災が起こった時にいかに早く消すことができるのか、また、火災を起こさないためにどんなことが考えられているのか、について問題意識を持って調べ活動を進めた。その中で、金閣小学校区には、消防署や出張所がない地域があることに着目し、そこでは防火活動がどのようにして行われているのか、を調べようと学習が展開されていった。その過程で、校区にある消防分団について知り、消防分団の人たちが、火災に対してすばやく対処できるように日頃から話し合いを進めたり、消火訓練を行ったり、防火のために地域を見回ったりしていることを知り、消防分団員として、自分たちの地域は自分たちの手で守るという意識を持って活動をしていることを学んでいくことを目指した。

消防の仕事を、消火と防火の観点から追究するが、両者は密接にかかわっていることや日ごろの地域の人々の防火意識・活動が重要であることを、調べ活動を通して気づき、新たなる疑問から追究へと学習を深め、具体的に理解する展開とした。

⑤指導計画（全11時間）

- 1 学校にある消防器具・設備調べ 2 時間
- 2 登下校中に見つけた防災設備・施設 1 時間
- 3 消防分団の活動 1 時間（本時）
- 4 消防署の仕事 4 時間
- 5 安全なくらしを守る 3 時間

⑥本時の目標

地域の安全を守るための、消防分団の人々の活動や願いを考え、表現する。

⑦本時の展開（本時 4 / 11）（○……主な発問 ◇……指示）

教師の主なはたらきかけ	学習活動	予想される児童の反応	指導上の留意点・評価
◇過去に起きた原谷の火災について考えてみましょう。	原谷で起きた火災の状況を知る	・原谷には消防署がない。 ・消火活動が始まるまでに時間がかかるかもしれない。	資料；H4.9.11に原谷で起こった火災の新聞記事
◇消防車が到着するまでにどれくらいの時間がかかるのか確かめましょう。	消防車到着までの時間確認		北消防署から原谷までの地図

<p>○原谷の人たちはどうやって消火や防火をしているのでしょうか。</p> <p>◇みんなの課題を確かめる</p>	<p>原谷での消火活動について考える。</p> <p>本時の課題を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バケツリレーをする。 ・かっぱ池から水をくむ。 ・消火栓から水を出す。 ・消火器で火を消す。 ・消防団の人たちが消火を始める。 ・消防団の人たちが火の用心をしているのを見たことがある。 ・消防団の人たちの訓練を見たことがある。 	
<p>消防分団の人たちは、どのような活動をしているのだろうか。</p>			
<p>○消防分団の人たちがどんな活動をしているか考えてみましょう。</p> <p>◇消防分団の方に聞いてみましょう。</p> <p>○消防団の人たちがどんな願いをもって活動しているのか考えてみましょう。</p> <p>◇消防分団の方にどのような願いを持って活動しているのかを聞いてみましょう。</p>	<p>消防分団の活動について考える。</p> <p>消防分団の活動について知る。</p> <p>消防分団の人たちの願いを考える。</p> <p>消防分団の人たちの願いを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練している。 ・消防署の人に消火について教えてもらっている。 ・夜の見回りをしている。 ・消防器具の点検や火の用心の見回りをしている。 ・学校のグラウンドで訓練をしている。 ・素早く動けるようにみんなで協力している。 ・昼間は仕事をして、夜は消防団の活動をしている。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの町を自分たちの手で守るために頑張っている。 ・みんなの安全のために自分のできることをやりたいと願っている。 	<p>【知】消防分団の人々の活動を理解することができる。</p> <p>資料；消防分団の活動の様子のビデオ</p> <p>資料；消防分団の人たちへのインタビュービデオ</p>

<p>◇今日の学習から学んだことを消防分団の人たちの願いをもとに考えて発表しましょう。</p>	<p>消防分団の人たちの願いを考えた学んだことを自分の言葉で表現する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の仕事もあるから大変だ。 ・地域の人たちが防火について気をつけてほしい。 ・地域の人たちのことを思って活動していてすごい。 ・昼間は別の仕事をして、夜に訓練をするのはとても大変なことだ。 ・自分も大人になったら消防分団に入りたい。 	<p>【思】消防分団の人々の願いを考え、自分の言葉で表現できる。</p>
---	---	--	--------------------------------------

⑧授業時の板書

新聞記事
H4.9.11

原谷での消火活動

消防分団の人たちは、どのような活動をしているのだろうか。

原谷では12分かかる

活動
訓練、シミュレーション
家事の見回り 火の用心
話し合いをしている
昼は別の仕事をしている
消化器などの点検
火事が起こってもすぐ消す

火災以外の災害の時も活動

新聞記事
(拡大図)
H4.9.11

北消防署～原谷までの地図

昼は仕事 夜は消防分団

消防車 15台
ヘリコプター 1台

消防車平均到着時間
5分40秒

火の用心 器具の点検

月2回の話し合い

願い：家族や地域を守りたい
みんなが安全にいらしてほしい

(2) 授業についての考察

「社会生活に関心を持ち、自分たちで調べ、考え豊かに表現できる子どもの育成」を目指して、4年の社会科ではどう授業を展開すればよいのか、授業実践を試みた。

子どもたちが、授業でどのように調べ、自分の考えをどう表現すればよいのか。これは、2011年度より実施の学習指導要領、社会科の改善すべき具体的事項でもある。

学習指導要領の社会科では、「作業的、体験的な学習や問題解決的な学習を一層充実させることにより、学習や生活の基盤となる知識・技能を習得させるとともに、それらを活用して観察・調査したり、各種の資料から必要な情報を集めて読み取ったりしたことを的確に記録し、比較・関連づけ・総合しながら再

構成する学習や考えたことを自分の言葉でまとめ伝えあうことによりお互いの考えを深めていく学習の充実を図る。」とある。

本単元の本時では、単に地域の消火のための施設・設備を調べたり、防火のための取組について聞き取ったりするなどの調査活動を個別に行うのではなく、消防署がない地域ではどうしているのか、大丈夫なのかという問題意識を持って、どのような工夫や取り組みがなされているのか、といった観点で調査・追究活動を行い、より意欲的に、かつ、深く理解していくことをねらった追究活動の展開とした。

本時の子どもの反応から、「普通なら5分40秒ぐらいで消防車が来るが、この地域では12分以上かかってしまう。その分、消防分団の人が早く火が消せるように、いつも訓練している。」とか、「火事の見回り、消火器の点検などをやっている。」「地域の人が消防分団の人と協力している。」などの意見が出てきた。「火事が起こったら大変だから、火事が起こらないようにする点検や声かけをいつもしている。」「消防分団の人が夜活動をしているのを見て、地域の人も火事を起こさないように気を付けるのではないか。」という意見も出てきた。

地域の違いを比較しながら、また、消防自動車の到着時間の違いに着目し、より強い問題意識に支えられた追究活動によって、子どもの考える内容が深まり、考える視点にも広がりが見られることが確かめられたのである。また、その子なりの問題意識を反映した考えを、一人一人が自分の言葉で表現している姿が見られたのである。

4. おわりに

社会科の学習が、子どもにとって意欲的であり、かつ、深まり、広がりのある追究活動であることが求められているが、このような筋道で学習を展開すればよいという、どの学年、どの単元にもあてはまる手立てなどはない。一つ一つの単元、教材で考えなければならない。そのためには、子どもに密着した授業実践は欠かせないのである。

小学校と連携しながら、より具体的に授業の在り方を探っていかなければならない。それが、子どもから学ぶということであり、子ども主体の学習活動の研究の原点であるといえよう。

今後も、このような学校と連携した授業研究を重視していかなければならな

いと、改めて考えた次第である。

II. 紫明小学校と連携した道徳の授業実践研究報告

関 口 敏 美

1. はじめに

高山班では、現行学習指導要領のもとで子どもたちに「生きる力」を育てる教育実践を調査・分析する試みの一環として、2011年度に京都市立金閣小学校、紫明小学校、第三錦林小学校と連携して共同研究を行った。道徳教育に関しては、紫明小学校と連携し、①道徳の授業観察、②研究発表会への参加、③研究発表会配付資料作成への協力を実施した。

本稿では、京都市立紫明小学校における道徳教育への取り組みに注目し、「気づき、考え、共に高め合う子どもを育てる」ことを教育目標として、どのような道徳の授業が実践されたのかについて報告する。

2. 紫明小学校における道徳教育全体計画

本節では、紫明小学校の「平成23年度 道徳教育全体計画」を紹介する。

紫明小学校では、学校教育目標として、「生活に根ざして考え、課題を解決しようとする子の育成」を掲げ、具体的な子ども像としては、「自分の考えをしっかりとって行動する子」「思いやりの気持ちをもち、人を大切にする子」「よく聞き、よく考え、創意工夫する子」を想定し、それぞれ、自立性、社会性、創造性の育成をめざしている。

そこで、道徳教育の目標として、「気づき、考え、共に高め合う子どもを育てる」を、道徳教育重点目標として、「友達のことを思いやり、進んで協力して責任を果たす子どもの育成」、「学校や社会のきまりを守ろうとする高い規範意識を持った子どもの育成」をあげている。

学年目標としては、各学年のそれぞれの目標を次のように設定している。

1年 友達のことを思いやりながら、みんなと仲良くする子